

601

後藤新平東京市長とふる  
大正九年十二月廿日

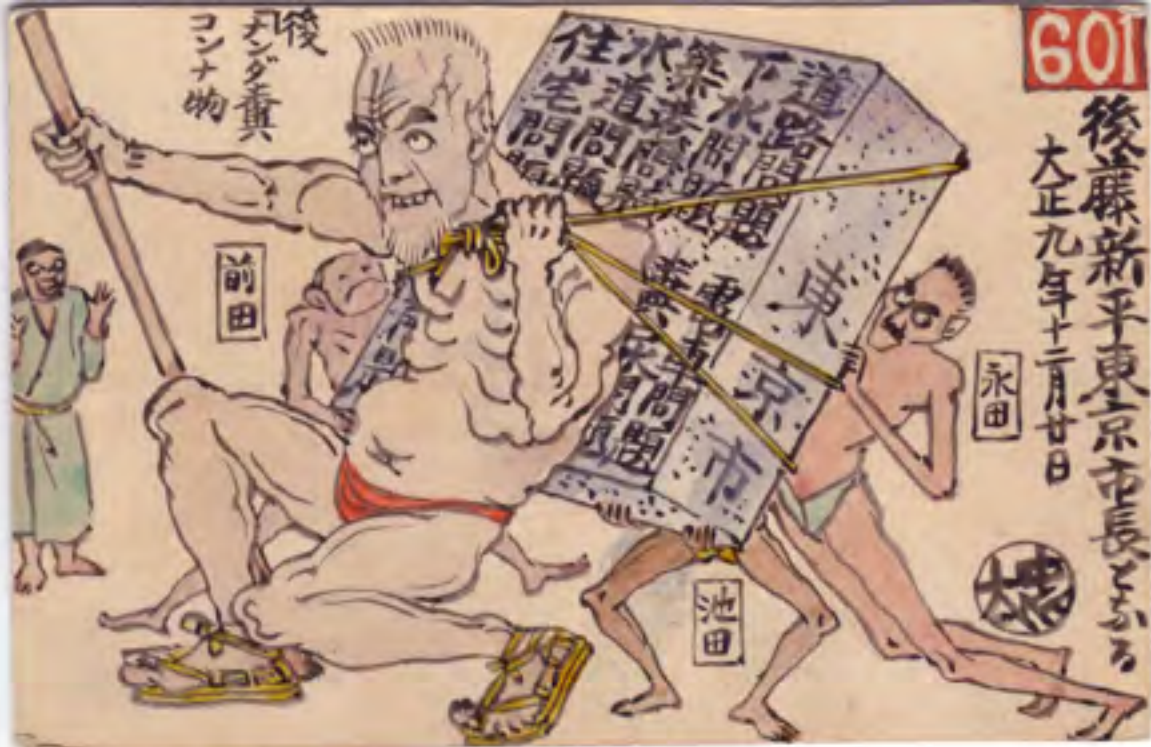
永田

大塚

池田

前田

後藤  
新平  
コナ物



602

大正九年  
の終り

物價表

|       |     |     |
|-------|-----|-----|
| 官吏年俸員 | 一八九 | 二〇〇 |
| 銀行會社員 | 五〇〇 | 三五〇 |
| 高工業者  | 三五〇 | 二五〇 |
| 醫師士   | 二五〇 | 六〇〇 |
| 無職    | 一三〇 | 一五〇 |

物價表

|       |     |     |
|-------|-----|-----|
| 米一升   | 四   | 五   |
| 湯一合   | 二   | 二   |
| 牛乳一合  | 一   | 二   |
| 鰻魚一個  | 二〇〇 | 二〇〇 |
| 鰻魚仙一反 | 三〇〇 | 三〇〇 |
| 佐倉炭一俵 | 八   | 五   |
| 番茶一斤  | 一   | 五   |
| くらげ十帖 | 二   | 〇   |
| 背廣三番  | 二   | 〇   |
| 十折帽一  | 二   | 〇   |
| 靴一足   | 二   | 〇   |

大正九年  
十二月廿一日

庚申山越え鶏頂山人

大正九年十二月  
三十五日



604

## 米国宣教師

(今度は獨りよ思ひを表明せしむ)

米宣

宣教師よりいふ宣傳や  
煽動の方が面白いが  
お前盗は又格別面白いぞ大正十年  
一月九日



605

壩國破産

大正十年一月十四日





東京市疑獄檢挙  
(吞舟の魚を逃す)

大平年  
一月十六日



## 浦鹽事件(月合)

大正十年一月十六日



歩哨

「うちの西坊が  
トシダあそこ  
致しまして相  
済ましてんド  
ゾ御勘弁を  
い」

「以後気さ  
ツケやがま

ランゲーン







610

大錦全勝



黒瀬川 小由良 矢野 紅雲 清瀬川 柳井 三杉 藤の 千葉

大正十年四月



原加藤四子組人だま、  
引き分け



獨乙児童  
死絶せんをす

(ラヒチツシユ病を)

大正十年一月廿八日





## 第四十四議會

その三

(文相陸相

追合窮せらる)

大正十年

一月三十日



田中

中橋



高工

「私はいつまで  
カコウしては  
居られません  
早く何とか  
して下さい」

付人

「旦那がア  
おつしやれバ大丈夫  
だから安心して  
待て居ふさい」

中橋

「来年は此度  
昇格させろ」



大正十年  
二月三日



高工



旦那や旦那が...  
マ...待ちやいの  
仲介人

中橋

昇格すると約束  
はせぬじや」と思ふ  
と言ふたのだ

大正 十年 四月 大忠

616

## 藏前高王昇格騒動 才三

高王  
「まてーだまてーさうしたか  
口惜しい。死んで  
恨を晴して呉れよう」



大正十年  
二月五日



仲介人  
「マレク  
待つた  
早まるふ」



藏前高工昇格騒動  
第四

辰谷

貴族院  
切腹免さ  
きとは申  
さぬが切腹  
免さるあら  
止免は致さぬ

原

我等より  
所存が由堅る

中橋



大正十一年九月

618

宮中某大事件

大正十年二月十日



619

スタイナハ回春法

大正十年二月十五日



スタイナハ回春法

620

當冬の収穫

大正十年二月廿八日



柿沼谷雄 一戸直藏 下條正雄 伊藤平空門 阪田貞一 立花俊吉 大沢岳太郎 難波正 和田維四郎 岩本千綱 瀨川昌春 玉塚栄次郎 高崎親章 大場茂馬 石橋和 松井角平 日谷平左門 小林源藏 伊集院五郎

村野山人 小野五平 筒井八百珠 三宅恒方 彦阪湛照 近藤康平 村田經方 周布公平 松村鉄肝 大迫貞武 夷琴石 小池張造 斎藤季四郎





621

東宮御渡歐

大正十年三月三日



「勝手」  
しやかま  
履行不可能  
要求を承諾されるかい

英

獨



台

和

聯合軍  
ゲッセルドルフ  
と占領す  
大正十年三月十日

徳

623

惡食時代

公吏啣砂

議員喰炭

党人吞舟

文相食言

首相喫人

大正十年三月十二日



政友  
加藤の五万円  
はドローした

憲政  
満鉄のザマ  
は何だ



第四十四議會

その四

大正十年三月十八日







東京市總戸数 四五六八二〇

内小賣商 五三三二四

食料品

三〇八七二

吳服小間物雜費

六二八〇

足袋下駄傘

四四七二

文房具玩具

二九〇一

建築材料家具

二七七三

金物

二二五四

藥材賣藥

一八九七

陶磁器硝子類

一五一〇

電燈瓦斯器

四五五

菓子商

八八一五

白米商

四〇八〇

酒醬油

三九〇五

薪炭

三一四四

菓菜

二八五九

乾物

一六三一

漬物

八三八

鳥獸肉

九八一

砂糖

五六一

食料品内譯

西洋食料品

二九二

第四十四議會終る  
大正十年三月廿六日



627

諸遠忌

大正十年三月廿七日



蓮日僧惡

澄最僧高

子皇戶既聖大



誕生七百年

自二月二十日  
至三月二十日



永成千百年

自三月廿日  
至三月廿一日



薨御千三百年

自四月十一日至四月十七日

在外邦人六十四万八千九百十五人

日本領土

十萬六千二百五十八人

關東州

七九三〇七

青島

二三五五〇

南洋

五三九九

支那

二〇〇〇〇〇

オリーブ

一一〇〇〇〇

海峽植民地

一一〇〇〇〇

以下畧

合衆国

一一五〇〇〇

加奈陀

一八〇〇〇

以下畧

西貢

三四〇〇〇

秘露

一〇〇〇〇〇

以下畧

白耳威(最少)

一二

以下畧

布哇

一一二〇〇〇

以下畧

大洋州 十二万人

アフリカ 七十三人

大正十年三月二十八日





629



浅草大火

大正十年四月六日午前八時  
半より午後三時迄焼失千六百戸



630

函館大火 焼失戸数二千五百

大正十年四月十四日 午前八時

自午前二時



函館の焼失区域



631

英佛米石油を争ふ

大正十年四月十九日

米  
「うまくやて居やがる  
おれ子め一杯飲  
ませろ」



## 醜類檢挙

何處迄根  
が張て居る  
か分らぬ  
深い處に大い  
のれありをうたが  
うまく引き抜け  
うかどうだか

大正四年  
十月廿日  
大





633

軍備縮小論

大正十年四月廿日

亭主

「いざ鎌倉と  
云ふ時の用  
意、今日も大  
の名刀を買  
て来た」



文身

「毎日そん  
なの許り  
買ひよ  
て、身代  
がつか  
まらん  
おトは小供達  
は何ぞ  
るやのを買  
て下さい」







皇太子英子御安着

636





大本教

幹部

收檻さる

大正十年  
五月十日

640

ヤブ島問題  
大正十年五月二十七日



米

從是左日本領

日



641

古賀廉造  
阿部浩誠  
首さる  
(知事交代)

親者

「オイ竹公五  
六疋一しよに  
ヤツケて  
仕舞へ



大正十年  
五月二十八日







## 今春の収穫

大正十年五月二十一日



松平康民

飯島喬平

横山久太郎

小松崎茂助

新城吉生

三角錫子

田中宗三郎

飯島魁

和達陽太郎

庭藤吉三郎

西山嘉儀

金尾稜巖

佐藤秀顯

沖野忠雄

山田憲

花房直三郎

伊藤馬吉

岡崎雪聲

芳川錦子

堀尾貫務

大野直輔

北島治房

伊東祐毅

豊澤園平

池田輝方

エミシ、ハリム

川上佐太郎

高田寿

福羽逸人

本多錦吉郎

清峯太郎

松平頼温



昔



644

# 學生惡化

大正十年五月三十一日

今



大

## 華族無用論

大正十年六月一日

維新のドサクサ紛れに

ウマクやった

元勳の公爵



へまふ外交で

失策で公爵



マダレ當りでも

戦に勝つ伯爵



畢竟は

金の

子爵



御相伴の

男爵



646

印紙喰い

大正十年六月五日

香川

大建

津下

印紙

印紙喰い

九鬼

小林

戸水





七十尺

六十尺

五十尺

四十尺

三十尺

二十尺

十尺

|     |          |
|-----|----------|
| 柱長  | 五十尺九寸三寸  |
| 柱直徑 | 六尺三寸     |
| 内法高 | 五十一尺     |
| 笠木高 | 六尺九寸     |
| 笠木長 | 九十八尺一寸五分 |
| 総高  | 六十九尺四寸   |
| 工費  | 二十萬円     |

空前の大鳥居

(靖国神社)

大正十年二月八日



意匠 伊東忠太  
製作監督 北沢五郎



大正十年六月十日



八十九才 相馬哲平

七十才 黒木為禎

八十七才 本多静義

七十才 莊田平五郎

八十三才 遠藤虎次郎

七十七才 井上良磨

八十才 三室三和光

七十七才 南部雅男

七十九才 塚本靖義

七十七才 堤功長

# 九十一才

## 山下政愛

八十才 本多静六郎

七十八才 馬越泰平

八十才 何礼之

七十七才 本多静六父

八十才 石井省一郎

七十七才 長井長義

八十才 野村素介

七十七才 佐藤進

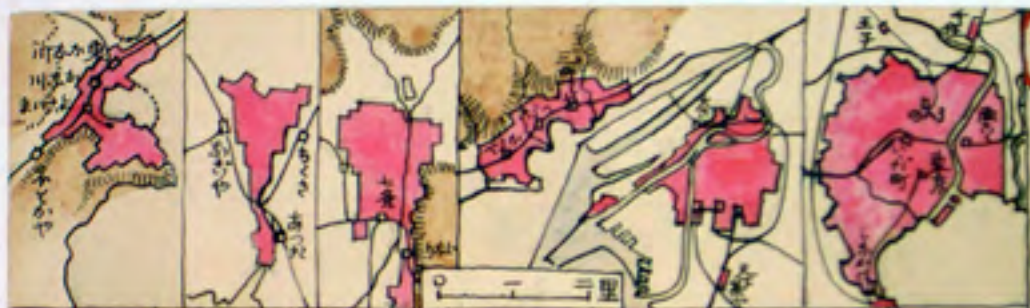
七十九才 伊東祐彦父

七十七才 阿部興久

七十七才 吉田醇一

七十七才 鍋島道大

七十九才 東郷平八郎



649

# 六大都市計画

大正十年六月十一日

|                | 横浜 | 名古屋 | 京都 | 神戸      | 大阪        | 東京        |
|----------------|----|-----|----|---------|-----------|-----------|
| 現在の都市計画区域 (方里) |    |     |    | 14.29   | 22.57     |           |
| 都市計画区域 (方里)    |    |     |    | 42.11   | 108.97    |           |
| 人口             |    |     |    | 608,629 | 1,252,972 | 2,157,308 |
| 一平方里の人口        |    |     |    | 42590   | 55070     |           |
|                |    |     |    |         |           |           |



650

エロシニコ追放さる

大正十年六月十二日

「愚心図」くして居ると  
叩き殺すぞ



「エ  
マ」そんな風に手淫いふと  
あさらずとめ……今出て  
行きます





651

アインシュタインの特殊相対性理論

大正十年六月  
十五日



一石博士  
我輩の新學を説  
を解する者は  
世界は「ダース  
とはあるまい



652

血腥い世の中  
(殺人、強盗、情死、自殺)



大正十年  
七月十日



653

## 日本呪はる

大正十年七月十日

「この杖桑樹をイクラ伐ツてもツンく  
延びやがる。今や世界中が陰みある  
だろう。今の中子根を堀て引きくら  
かへて仕舞へ。」



米國太平洋會議を提議す

義入貢

成贊<sup>①</sup> 贊成<sup>②</sup> 贊成<sup>③</sup> 贊成<sup>④</sup>

十一月に僕の国で  
開くらる賛成し玉へ  
大正十年七月十六日





655

國難？

大正十年  
七月二十日

附録

あふあいは  
深い處へは死  
らねるふ

大衆

米

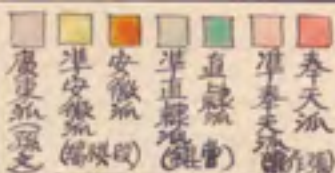
英

日



## 覽一力勢派各郡友

日七十二月七年十正大



657

東京市  
疑獄

(醜類訊問峻烈)

大正十年八月十五日



甲醜  
あゝ面目次第が悪い

乙醜  
ベン・ルース、

コレシヨウ

事が  
ナンダ

丙醜  
ナリーニ

案外

軽く

済む

だろ



## 一字苗字

大正十年八月廿日  
 續百九十四内城文五十一



支那

吳越秦張劉福郭鄭盧宋丹戎賴陶伴塢  
 何進牧甲清近紀阿釋丁神徐英乘洪稱

地

山陸島沖浦岸磯濱津泉池堀沼澤谷峯  
 嶺瀧岡丘阪麓田畑原森林藪園都辻郷  
 郡町場堤潮場境塘縣湊泊窪砦峠土圍  
 坂杜里隰

天文

旭嵐星秋

動物

鳳龍鸛猪鴻雁鱸鬼

植物

柳椿梅杉楠楓櫻橘杠藤葛萩蒲薄柏芝  
 柴神桂笹管楊萩榎榎葵蓮篠

方位

東西南北上下中乾巽左伸

名物

金鉄鑪錠城關門楯鼓宮室莊寬俵襪室  
 細膳段笠鏡佃角梶目幡館橋臺榎權節  
 絲織

形容詞

高長多平圓千間尺脇隈奥久寿奇翠益  
 篤太萬富永盛秀

動詞

實向勝渡叶祝立續晉揚屬登住連迫融  
 調昇迎調尚建

時詞

今



659

當夏の收穫

大正十年八月三十日



日比忠平 相馬梅王 中賀長雄 有賀直大 高島修三 相馬又三郎 佐々木倉永 佐々木八郎 金島文八郎 金島智一 堤多正 堤多政 小島正 小島政 望月安兵衛 佐治実然 鈴木清美 鈴木清三 三谷元三 三谷元三 前田正名 政尾正吉 石黒誠一 長谷川謙介 渡辺千秋



660

皇太子殿下  
御帰還



大正十年  
九月三日



瀬尾

入江



皇太子殿下御帰還奉祝  
大正十年九月八日



皇太子  
殿下の御英姿を拜し  
民衆は悉く感  
激して歓喜し流  
涕し號泣し暗  
涙を咽むなどある  
おせ狂喜し雀躍  
し、歡呼しおいのか  
泣く斗りが能であ  
あるまい。







663

江木衷大の大本教  
を辯護す



大正十年  
九月廿二日

手三浅野

「ミンナ神憑リデス

私ハ何モ知リマセン

江木

人間の作ッた

法律が動物ミ

イヤリ神様

は適用が

出来る

ものが



664

小賣  
暴騰



米一升  
酒一升  
栗一升

四五  
三〇〇  
一三〇

銅一貫目  
梨一個(拳大)  
そば(もりかけ)

二〇〇  
一五  
一〇

大正十年九月廿五日



665

家達公

善重郎大使

友三郎大臣

華府會議全權使節  
變不取合也



大正十年九月廿日



666

安田善次郎殺さる  
大正十年九月二十八日



朝日平吾

「強慾心非道の  
守銭奴先か

安田

「金は一文も出  
さあいが命ばかり  
は助けてくまじ





667

安田善次郎船賃を値切る

大正十年九月二十九日

安田

六文は高い五文をあげなさい



668

宮内省大改革

大正十年十月廿



669

帝大老教授  
の末路

大正十年十月九日

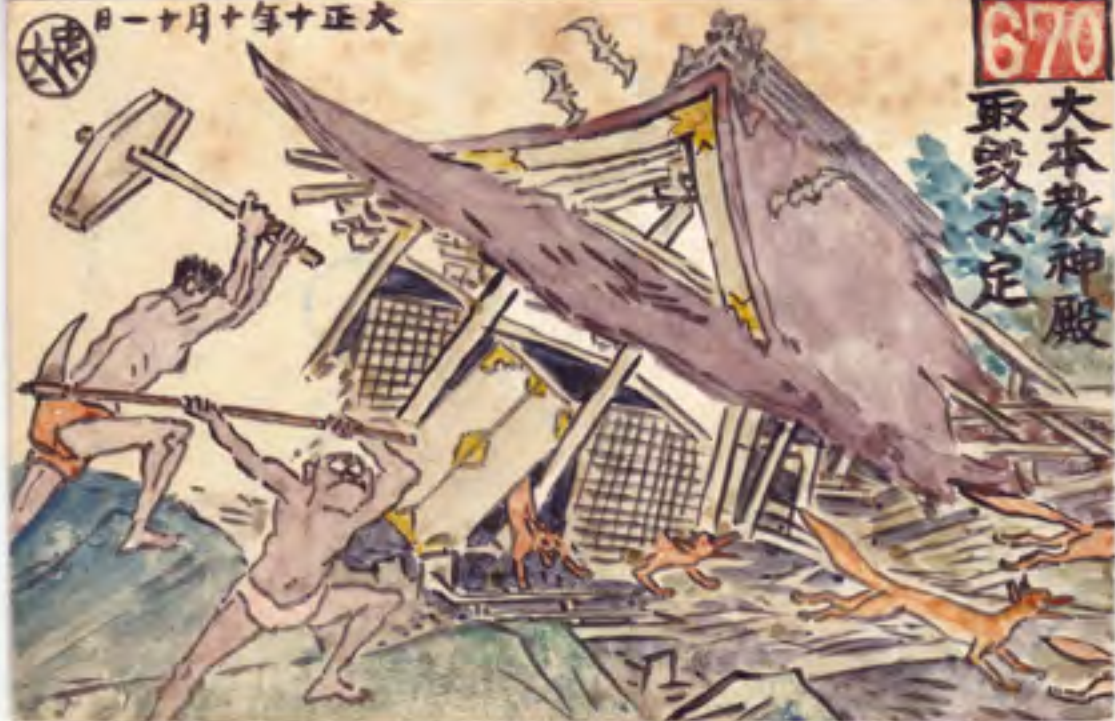
娘



大正十年十月一日

670

大本教神殿  
取毀決定





671

支那政府財政切迫

大正十年十月十二日



借金簿

中央政府

ゴノ通りだよ。一文もふ  
いよ。アハ……

収入簿



督軍

早く三千  
萬両をお  
ぎつけて  
引退し  
たいものだ



大正十年十月十三日

原阿佐緒

契合

東大文学教授  
理学博士 石原純

乖離

帝大助教授  
後藤久生

673

鐵道五十年紀念祭

大正十年十月十五日



674

藝術家

氣質

(帝展彫刻部小確執)



大正十年十月廿日





傳子ム

「あの莫連阿魔  
死覺へて居る、

嘩子

「憚ふから白蓮様だ、

莫連じゃあいよ、

老不登爺だ、

ザマー見やがせ、

宮寄

「嘩ちゃん

おいで



高等裏店

大正十年十月廿三日



## 女子覺醒？

大正十年十月廿七日



熟睡せる女  
大正十年十月廿七日



677

覺醒せる女

大正十年十月廿七日





678

婦人よ!

大正十年十月廿日



熟睡  
して甘  
夢を  
結ぶ  
覚醒  
して恐  
怖を  
感へる



## 近頃の新婦人

大正十年十月二十七日



679

秋日和

大正十年十一月一日



大隈侯  
一と先ヅ助かる

大正十年  
十一月三日





大正時代

明治時代

江戸時代

戦国時代

681



女性化する男

男女顛倒 大正年土月四日



男性化する女



682

原敬刺殺

大正十年十一月五日

（四日後）  
（中）  
（大）



「ドモ遅クナリ  
マシテ済ミマセン」

## 刺客列傳

大正十年十月六日



有利治左門

西野文太郎

鳴田一郎

中國民二

安重根

朝日手書



## 三人上戸

「情ない  
世の中だ」

「面白い  
世の中だ」

「癪さわる  
世の中だ」

大正十年  
十月七日





685

レニン行き詰る

「ヨくやり切まあい、  
看板を取り替えて見よう」

レニン



大正十年十一月八日



影い希望者

686

大正十一年十一月九日



## 山縣公病む

大正十年十一月十一日



鬼

僕の方でもアノ老人は困つて  
居るのだ。モー  
少し待て呉れ給へ

醫者

「よい加減ま  
引き取て呉れ  
ませんか



## 高橋是清首相とある

大臣時代



官吏時代



箱屋時代



女裸時代



碗白時代



倒して復れ起ッ  
便々たるその肚  
裡定めて是し  
金塊

大正十一年一月十三日





689

太平洋會議

大正十年十月  
十七日

米  
軍備  
縮小案

僕は  
五杯  
英君は  
六杯、日君は  
三杯としゃう  
じゃあ  
あいさ

笑  
「よう  
ろう」

田  
賛成だが……  
チット待て呉れ玉へ

伊  
佛



690

觀兵式

大正十年十一月廿日



691

天皇不豫東宮攝政

大正十年十二月廿五日



692

今秋の收穫

大正十年十一月廿日



福本 村授 誠  
 木村 授 誠  
 国分 象太 郎  
 近藤 虎三 郎  
 大島 永憲 郎  
 伊丹 春三 郎  
 山田 春三 郎  
 大江 英忠 郎  
 河合 良之 郎  
 入江 友次 郎  
 小野 友次 郎  
 田中 唯一 郎  
 安田 善次 郎  
 寺田 勇吉 郎  
 大島 道太 郎  
 股野 琢郎 郎  
 片山 芳林 郎  
 鬼頭 玉芳 郎  
 児王 亮太 郎  
 森正 亮太 郎  
 原藤 兼助 郎  
 佐藤 幸義 郎  
 浅野 幸義 郎  
 東儀 俊明 郎  
 野元 綱明 郎  
 高津 鐵三 郎  
 伊東 知也 郎  
 小谷 信誠 郎  
 長岡 恒利 郎



693

日米問答  
(軍備縮小問題)



米  
「六割」よろ

日  
「ト一カ七割」  
願ひ升

米  
ソリヤ  
高い

日  
「カ一六割五分」  
願ひまーや

米  
「駄目だ」

大正十年十一月廿九日



694

前獨帝某軍人未亡と結婚す

大正十年十二月八日



695

明治廿七年來の強震（水平動）  
大正十年十二月八日



696

四國協定  
(日英同盟廢棄)

英米  
坊や  
新しい大きい  
のと取り  
替へて上  
げろよ



大正十年十二月十日





697

東京市断水

大正十年十二月十一日



大正十年十二月二十日



先生

日本は如何ある点ヲ拵て

世界ヲ第一とするか

甲生

万世一系……皇統連綿……

乙生

富士山……琵琶湖

丙生

地震の多い点で

丁生

「首府の不体裁、殊ニ道路の悪い点で

戊生

「国民の公德心の無い点で

己生

「思想界の乱雑ある点ヲ拵て

庚生

「新聞雑誌の乱発の点で

辛生

「政治及外交の下手な点で

壬生

「物價の高い点で

癸生

「學校先生の貧弱ある点で



699

雜誌廣告競爭

大正十年十二月廿六日



700

大正十年末

の世態

大正十年十二月廿日



大正十年末物價表(銭單位)

|        |     |
|--------|-----|
| 米一升(等) | 五〇  |
| 酒一升    | 三〇〇 |
| 炭一貫目   | 五〇  |
| 醬油一升   | 一〇〇 |
| 牛肉百匁   | 一八〇 |
| 塩蛙一尾   | 三五〇 |
| 大根一本   | 三〇  |
| 大工一人   | 三五〇 |
| 人夫一人   | 二八〇 |

階級

百匁の家計

種類

明治五年 明治五年

富豪

一万円以上

大資本家

富豪

千円以上 五百円以上

民 富

五千円以上

一級會社員

民 富

七百円以上 三百円以上

民 中

三千円以上

二級會社員

民 中

五百円以上 三百円以上

民 中

二千円以上

三級會社員

民 中

三百円以上 百円以上

民 中

千円以上

大臣

民 中

二百円以上 五十円以上

民 中

七百円以上

上級教員

民 中

四百円以上 十円以上

民 中

五百円以上

下級教員

民 中

五十円以上 廿円以上

民 貧

三百円以上

上級妻佐

民 貧

三十円以上 十円以上

民 貧

二百円以上

下級妻佐 特殊職工

民 貧

二十円以上 十円以上

民 貧

百円以上

上級判任 上級職工

民 貧

十円以上 五円以上

民 貧

百円以下

下級判任 下級職工

民 貧

十円以下 五円以下

民 貧

百円以下

下級判任 下級職工

民 貧

十円以下 五円以下